

鍵を握るのは

農薬による徹底防除？

それとも生物の多様性？

私たちの主食「米」とアジアの農業の将来を一匹の虫を通して考える ——ウンカの大量発生は私たちに何を語りかけているのでしょうか

生物多様性ってなに？

地球上に生存する3,000万種ともいわれる多様な生物。様々な環境に適応してきた生きもの同士が喰ったり喰われたりしながら共存し、絶妙なバランスで生態系を形成する。また、同じ種でも異なる遺伝子を持つことで、形や模様、生態などに多様な個性がある。このようなたくさんの生きものの「個性」と「つながり」を「生物の多様性」という。



トビイロウンカ(通称“ホッパー”)

『人間というのは“ケイザイ”とやらが優先らしい』

稲ウンカの一つで、本作品のガイド役。生き残る為の巧妙な技を持つ。「多様な遺伝子をたくさん遺し環境の変化に適応する」のは自然界では当たり前。生物的にも遺伝子的にも多様性の低いモノカルチャーにこだわる人間が不思議で仕方がない。害虫と呼ばれるのは不本意。

『農薬散布にたっぷりの肥料 おまけに作付けも増やす これがウンカ大量発生の “レシピ”です』



昆虫学者 ヘオン博士

ヘオン博士が勤める国際稲研究所は「緑の革命」を主導し、米の増産を実現した代償としてアジアでの農薬の大量散布をもたらしたと批判を受けてきた。そんな研究所の一研究者が躊躇もせず「ウンカ発生の原因は農薬だ」と爆弾発言。生物の多様性を活用したエコロジカルな水田を広めるべくアジア各国を奔走する。



監修:独立行政法人 国際農林水産業研究センター元研究員 寒川一成

ナレーション:佐竹海莉 ウンカ(声):青柳文太郎 撮影:秋葉清功 満若勇作 小原信之 李浩洋 河合樹香 音楽:仲田美穂 ©Corazon Latino "La Bamba"

CGアニメーション:北川陽徳 音楽効果:株式会社T&K社 合田享生 編集・録音スタジオ:株式会社 アクエリアム 構成・編集・演出:河合樹香 プロデューサー:小泉修吉 水野憲一

制作協力:株式会社 グループ現代 製作:特定非営利活動法人 環境テレビトラストジャパン (TVE Japan) 助成:芸術文化振興基金 独立行政法人 日本万国博覧会記念機構